

令和4年度 県立学校コミュニティ・スクール推進事業研修会 開催報告

- 1 **趣旨** 学校と地域が一体となって子どもを育む「地域とともにある学校づくり」の充実方策について、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の有効的な取組に係る講演やトークセッションを通して、県立学校における円滑かつ効果的な導入や取組の充実に資することを目的とする。
- 2 **主催** 滋賀県教育委員会
- 3 **対象（主に県立高等学校関係者を対象とする）**
 - (1) 県立高等学校教職員、県立特別支援学校教職員
 - (2) 県立学校運営協議会（コミュニティ・スクール）関係者、学校評議員
 - (3) 県および市町の社会教育委員
 - (4) 「地域連携担当者」等新任研修受講者（選択研修）
- 4 **日時** 令和4年7月7日（木）13:30～16:30
- 5 **会場** 滋賀県庁 東館7階 大会議室
- 6 **内容**
 - (1) 事例発表：「長浜北高等学校におけるコミュニティ・スクール導入から現在までの取組について」
発表者：長浜北高等学校 校長 北村 登志子 氏
 - (2) 講演
演題：「県立学校におけるコミュニティ・スクールの有効的な活用について～好事例に学ぶ～」
講師：^{こうやま しんいち}香山 真一 氏（文部科学省CSマイスター）
 - (3) 情報交換

7 事例発表・講演・情報交換について

事例発表では、県内の県立学校で初めてコミュニティ・スクールを導入された長浜北高等学校の主な取組である「N-プロジェクト」と「高校生 Challenge&Creation」について御紹介いただきました。育てたい生徒像を明確にすること、学校運営協議会によって地域と学校が一緒に生徒を育てていくこと、そのためにビジョンを共有し、学校運営を共に考えることを大切にされていることを教えていただきました。



講演では、文部科学省CSマイスターの香山先生より、新しい時代の日本型学校教育が求められる背景、どんな人をどう育てるかという目標設定の方法について丁寧に御教示いただきました。

また、どのように実践・評価・改善するかについて、岡山県立和気閑谷高等学校の校長としてコミュニティ・スクール（CS）を導入されたご経験をもとに、CSの可能性を5つの観点から考察する方法について御紹介いただきました。

情報交換では、会場・オンラインともに4～6人のグループに分かれ、研修会の感想や自身（学校・学年・地域）の取組等をお話いただきました。これからCSを導入する学校と既に導入している学校の交流や、異校種の交流により広い視野でCSについて考えていただく機会となりました。



8 参加者のアンケートより

- ・CSの充実を図ろうとしてきましたが、どうすれば一層の活性化が図れるだろうかとヒントが欲しいと思い参加しました。長浜北高の取組の根底にある、地域の活性化の意識を大切にしたいと思います。また、学校だけでなく、地域、市教委、行政の支援を得る努力も必要だと感じました。
- ・管理職がリーダーシップをとってやっていかなければならない。学校の職員がどのように関わっていてもらうのかを考えながら進めていきたい。
- ・学運協のメンバーを前年踏襲としか考えていませんでしたが、どのような役割をお願いしたいか、というプランや方針をしっかりと持ったうえで、委員のお声かけをしていきたいと思えます。ありがとうございました。
- ・香山先生のお話には、事例を含む示唆に富んだ内容が多く、今後、学校運営協議会の事務局として役立てたいと思いました。特に、スクールポリシー策定の手順やスクール・ミッションの再定義の話、CSを5つの観点から考え可能性を探る話など興味深くお聞きしました。
- ・本校は、現在CSを立ち上げておりませんが、来年度を目指して立ち上げていくことに積極的であり、今日の話の中でもありました、ダイバーシティとインクルージョンの観点で、他校とは違った特色も打ち出せるように思います。湖北が抱える地域の問題や課題を、本気になって考えていく時期にもなってきたように思います。
- ・県立学校のコミュニティ・スクールのお話でしたが、中学校で活用できる内容もたくさんありました。学校運営協議会に生徒も参加しているというお話を聞き、中学校でも生徒たちが参加できるといいなと思って講演を聴かせていただきました。
- ・情報交換で、すでに導入をしている学校の担当者に話を伺えたのがよかったと思います。地域コーディネーターがとても大切であり、しっかりと話し合いをすべきだと感じました。

